市内循環バスの運行見直しにあたっての前提条件

資料3

- 市内循環バスは、民間路線バスだけではカバーしにくい地域の移動を補完する交通手段です。
- 一方で、運転手不足、車両数、財源、安全に走れる道路には限りがあり、要望をすべて取り入れることはできません。

- そのため、本日は、

「どこにバスを走らせてほしいか」だけでなく、
「限られたバスをどのように使えば、市全体としてより使いやすくなるか」

を一緒に考える場にしたい。

市内循環バスの運行見直しにあたっての前提条件

- 停留所を増やしたり、運行ルートを広げれば、所要時間が長くなり、運行間隔も長くなることがあります。
- 増便や増車も、運転手不足のため簡単ではありません。

そこで、皆さんには、以下の視点でご意見をいただきたい。

- 特に困っている移動は何か
- どの時間帯・目的地が重要か
- 多少の乗り継ぎや徒歩を含めても改善できる方法はないか
- 市全体として公平で持続的な運行にするには何を優先すべきか

市内循環バスの運行見直しの基本的考え方

【参考】和光市地域公共交通計画
事業２－１「移動ニーズに合ったコンパクトな運行への見直し」

○ 小型バス車両による効率的な運行

○ １周４０～５０分以内の小循環ルート

○ 利用状況を考慮したバス停や区間の見直し

○ 適正な運賃の検討